

ワクチン接種崩壊

緊急事態宣言や蔓延防止等重点処置の発令されている都道府県がある中、ワクチン接種が進んでいません。一部では、64歳以下の皆さんへの接種券配布のアナウンスもなされています。

かくいう私のところにも藤沢市より漸く接種券が先週末に届けられました。本日、近くの医院に電話予約しようとしたのですが、案の定話し中が続き、なかなか予約は難しいなあと思いました。しばらくしてかけなおすと、漸くぽつぽつつながりましたが、ここで大きな問題。まず、門前払い問題—すなわちかかったことない医療機関では予約できないところが多い。次に、今予約しても8月中旬に第一回目の接種となることです。

かかりつけ医での接種を基本としている藤沢市ですから、掛っていないところで断られるのは仕方ないかと思いますが、8月中旬の第一回接種には納得いきません。政府は65歳以上への接種を7月末完了を目指していたはず、既に藤沢市はその約束を守ることができない状況がはっきりしました。

なんでこうなるのか、藤沢市のデータを調べてみました。6/11までに第一回31,488回第二回5,698回の計37,186回が接種されています。一方、ワクチン入荷量は、6/4日入荷までで113,295回分です。差し引き76,109回分はどうなったのでしょうか？仮に、第一回接種済で二回目がまだの分25,790回分を引き当てたとしても、50,319回分(これまでの接種累計より35%多い)が新規分として残っています。

こう考えると、何とも釈然としません。地元には相当量が在庫されている状況であるといつてよいでしょう。にもかかわらず、早期に接種したい市民は、東京まで出向かないといけない。ちなみに、私は仕事柄早く接種したいので、結局東京接種を急遽予約しました。今週分は半分、来週分は90%ほど余裕があるようです。藤沢では、8月まで待たなければならない状況が起きています。7月末までに65歳以上希望者に接種を完了することは藤沢市ではできません。

藤沢市の65歳以上の人口は約11万7千人です。6/28の週までに入荷するワクチン累計は213,915回分です。したがって、回数だけを見れば、6月中旬に藤沢市の65歳以上の希望者全体の接種が完了することが数字上は認められます(藤沢市のワクチン接種実施計画書(21年3月発行)では70%の人が接種する前提となっています)。なぜ第一回が8月中(必然的に第二回完了は9月上旬)になるのか、他の自治体が64歳以下、企業ごとの接種といった進捗の中で、藤沢市民は多くのデメリットを被っています。鈴木市長は「ワクチン接種は順調に進んでいる。今後、ワクチンの配分量を見据え、市医師会などと連携し、ベストミックスの観点で住民接種の準備を整えていく」と語っているようですが、この実態をどう見ておられるのかお聞きしたいものです。

これを、企業の業務改善の視点で考えてみました。

要するに、在庫がうず高く積みあがっている状況は、モノを流す仕組みが拙いからに他なりません。在庫の積みあがった前後のバランスが悪いということです。



藤沢市の場合には、保管/計画、輸送、接種のバランスが悪いということになります。65歳以上で最初の接種が8月になり、もの(ワクチン)入りに問題なく、ワクチンはどこかに余っている状況では、接種するプロセスに問題があるということです。かかりつけ医で接種する意図は、良いと思います。しかし、ものの入りと接種リードタイムを考慮した入庫から個別接種完了までのプロセスを正確に把握しているか、現場任せにしているか、入庫から医療機関までの輸送計画は適切か、日々の予実管理は適切に行われているかといった視点での確認が必要でしょう。また、お医者さんの言を借りれば、「いつ」「どのくらい」医療機関に入荷するかの情報が無い、モノがあればもっと打てるとの声もあることも事実です。

そう考えると、接種計画そのものが現状に合っているか疑問を感じます。さらに、現在150程度のかかりつけ医療機関で接種していますが、適切な材料要求/消費管理ができていないとは思えません。あくまで平均値での議論ですが、これまでの累計接種回数 37,186回/150機関=248回/機関となり、本格接種開始日(5・17)から4週間(5日/週の接種日)とすれば、週62回、一日12回となり、一機関あたり2バイアル(瓶)のワクチン接種となります。集中接種では1時間に48回の接種を前提としているかと思しますので、単純に各医療機関では接種だけで(前後は考慮していません)週に1.5時間、効率を考えても2時間程度の負荷になります。

$117,000 \text{ 名} \times 0.7 \times 2 \text{ 回} / (62 \text{ 回} \times 150 \text{ 機関}) = 17.6 \text{ 週}$ となり、現状のペースでは5/17から18週間後の9/13日の週に65歳以上の希望者への接種完了となります。つまり、最初から7月末は無理で9月完了が実態ではなかったかと思えます。(現在の実感とほぼ一致していますね)

したがって、12歳以上の藤沢市民は30万人ほど残っておりますので、同じような計算式で、 $300,000 \text{ 人} \times 0.7 \times 2 \text{ 回} / (62 \text{ 回} \times 150 \text{ 機関}) = 45 \text{ 週間}$ となります。藤沢市民の希望者全体に接種が完了するのは、1年後ということになります。集団免疫が70%で獲得されるということですから、藤沢市の集団免疫は1年後でないと実現できないということでしょうか。大企業や大学等での集団接種により短縮されるのでしょうか、現状の時間イメージはこんな感じです。これを加速させる手は検討されているのでしょうか？

現状以外の手立てはないのかを早い段階で考えるべきでした。モノと情報の流れを把握できていない計画を立てても、ものづくりがスムーズに流れないのと同じ理屈です。6月から7月にかけて集団接種も行われるようですが、1,824回分(914人分)では焼け石に水のような気がします。全国区で接種ワーストにならないよう行政トップ並びに担当部署で仕組みの再検討をお願いしたいところです。

(参考)

1 接種機会の確保

個別接種、集団接種の合計での接種機会確保の目標を接種対象者の70%相当(26.8万人、53.6万回)とします。

- 高齢者のワクチン接種状況(6月11日21時00分時点)※速報値



総接種回数	37,186 回
接種率	17.48%
1 回目接種回数	31,488 回
1 回目接種率	29.6%
2 回目接種回数	5,698 回
2 回目接種率	5.36%

※市に報告のあった住民接種の回数です。

※速報値による集計のため、後日修正することがあります。

※接種率の母数は「2020 年 1 月 1 日住民基本台帳」に基づく 65 歳以上人口です。

供給時期	数量
4 月 14 日	1 箱 (975 回分)
4 月 21 日	1 箱 (975 回分)
4 月 28 日	11 箱 (10,725 回分)
5 月 10 日	45 箱 (52,650 回分)
6 月 4 日	41 箱 (47,970 回分)
6 月 14 日の週までに	43 箱 (50,310 回分)
6 月 28 日の週までに	43 箱 (50,310 回分)
それ以降	未定

※1 箱当たりの接種回数の変更

国から供給されるワクチンは、当初 1 箱 975 回接種(1 バイアル当たり 5 回接種)でしたが、5 月 10 日の週及び 5 月 17 日の週から 1 箱 1,170 回接種(1 バイアル当たり 6 回接種)に変更となりました。